

事業報告書

第 20 期

自 2022 年 4 月 1 日
至 2023 年 3 月 31 日

特定非営利活動法人 劇研

目次

特定非営利活動に係る事業

創造事業1

人材育成事業3

国際交流事業5

文化・芸術活動支援事業6

文化・芸術を教育や児童青少年育成に活用する事業 ・7

文化・芸術による地域のまちづくり事業7

創造事業	支出額 2,117,947 円
------	-----------------

1. 事業内容

シニア世代の表現活動促進を目的に舞台芸術作品の制作・上演を行った。

2. 活動実績

50才以上を限定とするシニア世代の劇団運営を継続。（劇研シニア劇団／高槻シニア劇団）

A. 京都を拠点に活動する劇研シニア劇団星組および銀宴の企画運営

（主な活動場所 左京西部いきいき市民活動センターほか）

星組 練習毎週月曜日（指導・演出：細見佳代）

公演：2022年11月19日、20日 『きらきらひかるこの世の星よ』 構成・演出：細見佳代 / 3ステージ

会場：左京東部いきいき市民活動センター集会室（「いきいき秋の文化祭」参加）細見佳代さんが指導する講座「50歳からのハローシアター」との合同公演

公演出演者13名（星組8名、50歳からのハローシアターから4名、ゲスト2名） 来場者数：118名

2023年2月15日『きらきらひかるこの世の星よ』（Kyoto 演劇フェスティバル参加）

来場者数：219名

<取り組み総括>

コロナ禍がなければ、2021年に京都芸術センターや鳥の演劇祭（鳥取）で上演する予定だった作品を、昨年度上演した。このチームは2007年以来続く最も歴史があるチームで、公演実績も充実した内容であり、2022年度の公演も非常に好評であったが、平均年齢の高まりにより、年一回従来通りの形で公演を実施していくことに困難が生じるようになってきた。そこで、指導の細見佳代さんとも相談し、今季限りで劇研の事業から独立し、メンバーの体力やペースにあった活動を実施していくことになった。いつか訪れる事ではあるが長く続けてこられたメンバーが多く、作品も充実していただけにその終了は惜しまれる。（杉山準）



シニア劇団「銀宴」 練習毎週水曜日（指導・演出：田辺剛）

2021年に開催されたワークショップから参加した5名とそれ以前からのメンバー4名の出演で、2022年6月3日（14時30分/19時）と、4日（11時/14時30分）に新田辺シアターファクトリーにて公演「わたしの出番です」（作・演出 田辺剛）を上演した。

コロナ感染症予防の為、1ステージの定員数35名という縛りの中で、4ステージの動員総数は137名あり、ほぼ満席だった。

内容は人形劇団もされていた元メンバー（2022年4月没）を偲んだもので、ある市民文化祭に出演予定の人形劇団員と会場スタッフの起こすコメディである。可愛い人形も出てくるのでおばあちゃんの演劇を見たいという未就学児の観劇希望者にはゲネ見せということで対応した。公演会場にはそれまで使用していた人間座が利用できなくなり場所探しに苦労していたが、京田辺市から参加されているメンバー2名からこの場所の提案があり、見学・検討の上、ここで行



うことになった。会場側も貸出しは初めての試みだったのでお互いに手探りの開催であったが2023年7月にも同会場で公演を予定している。

<取り組み総括>

新しく参加されたメンバーで公演後に残ったのは以前に他のシニア劇団にいらっしゃった方が多く、追加団員募集で初体験者を継続して参加してもらうことの難しさを感じた。（土井礼子）

B. 大阪府高槻市を拠点とする、高槻シニア劇団2劇団の企画運営

（活動場所 高槻現代劇場 富田ふれあい文化センター他）

高槻シニア劇団「千年団」練習毎週火曜(指導・演出:小原延之)

主な稽古場所：富田ふれあい文化センター

劇団員 12 名

<取り組み総括>

これまでは小原さんの書き下ろし作品を上演してきたが、2023年6月の公演ではアントン・チェーホフの短編5作品に、スポーツを掛け合わせて上演することになった。

どの短編作品を上演するか、どのスポーツを掛け合わせるかは劇団員と講師で話し合いをしながら決めた。マラソン、相撲、テニス、釣りなど、多くのアイデアが生まれた。

またこれまでは客席を2面にし、正面をつくらずに上演してきたが、今回は通常につくりになっており、これまではあまりなかった「客席振り」をするシーンもある。劇団員たちの演技の幅が広がっているように感じられる。（飯坂美鶴妃）



高槻シニア劇団「そよ風ペダル」練習毎週火曜(指導・演出:筒井潤)

主な稽古場所：富田ふれあい文化センター

劇団員 12 名

<取り組み総括>

前作『ニュー・ピクニック・タイム』でのテーマのひとつであった「ごっこ遊び」を継続して検証するため、漫才のテキストを利用した。漫才といえばテンポのいい会話だが、あえてゆっくり喋ることによりズレをつくり、役と俳優自身の距離で遊ぶ。劇団員は当初ゆっくり喋ることに苦戦していたが、徐々にその面白さを理解し体現していった。あえてゆっくり喋る佇まいはそよ風ペダルに欠かせない。

一時期コロナのため休講していたが、「そよ風ペダルは私達の大切な居場所なので、早く復活してほしい」という声も多くあがっていた。次回作でもちょっと不思議なコメディ作品上演を目指す。（飯坂美鶴妃）



1. 事業概要

舞台芸術に関わる人材育成を目的に、各種のプログラム及び公演を実施した。

2. 活動実績

- ・ 演劇初心者、アマチュアの演劇愛好者を対象にした公演クラスの継続(京都2クラス／高槻1クラス)

■ 劇研アクターズラボ・公演クラス 京都（主な活動場所 左京西部いきいき市民活動センター）

演劇初心者、アマチュアの演劇愛好者を対象にした演劇クラス。1年間の練習を経て公演を実施する。

「劇研アクターズラボ+村上慎太郎」 チーム名「劇団 デマチカヤナギ」<指導：村上慎太郎>

土曜日午後2時30分～4時30分 メンバー数10名

コロナウイルス感染拡大を受け、開講を2021年4月に延期、本来2022年3月に予定していた公演も、途中緊急事態宣言等により延期となり、2022年4月に公演を実施した。公演は左京東部いきいき市民活動センターの主催事業「多様な交流促進のためのプレイベント」として実施した。2022年5月からは新たなメンバーを加え2期目として活動を継続している。

第一回公演「爆着サステナブル」

2022年4月29日～5月1日 4ステージ

会場：左京東部いきいき市民活動センター集会室

来場者数：128名

<取り組み総括>

新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、2022年度にずれ込んだ公演を無事終えることができ、第二期目も2023年5月の公演をもって順調に終えることができた。参加者10名のうち8名が2期目も参加し、ラボの方針でもある継続性がうまくいったことで演技技術の向上と作品のレベルアップも図ることができた。（杉山準）



■ 劇研アクターズラボ・公演クラス高槻（主な活動場所 高槻現代劇場<大阪府高槻市>）

「劇研アクターズラボ+伊藤拓也」クラス チーム名「あした帰った」<指導：伊藤拓也（演出家）>

毎週火曜日開講 受講者7名 2019年12月スタート（第三期：2022年7月～）

2019年11月に高槻現代劇場で行われた「新進演出家短編作品上演会」において、4名の演出家作品の中から観客投票1位となった伊藤拓也さんによるクラス。大阪府高槻市に新たにオープンした高槻城公園芸術文化劇場で開催の「高槻 de 演劇 初夏のプログラム」に向けてクリエイションを行った。

第三回公演（2023年度事業）『あなたは山になる』

構成・演出：伊藤拓也

高槻城公園芸術文化劇場 南館大スタジオ

2023年6月4日15時開演（1ステージ）

出演者7名 来場者見込み75名 主催：公益財団法人高槻市文化スポーツ振興財団

演出家の伊藤拓也と受講生たちが、綿密に対話と実験を繰り返しながら、「幸せ」、「共生」、「共創」といったテーマについてテキストを作成し、上演を行った。



<取り組み総括>

ここ数年のコロナ禍によって「集まること」自体に困難が生じ、多くの演劇の現場が、自分たちの実践の在り方について思考することを余儀なくされたことと思う。「あした帰った」も例にもれず、集まって何かを作ることとはどうすれば可能か、そしてそれは人生においてどういう意義を持つのか、参加者たちとともにじっくり話、考えながらクリエイションを進めた。

対話のなかで、どういう「場所」に集まるのか、ということの重要性も問題にされた。われわれにとっても、観客にとってもまだ馴染みのない劇場でどういうことができるのか、そこでの観客との共同をどう考えるのか、といったことが課題の一つになった。

あらゆることを手探りで進めた結果、俳優たちも各々に自らの課題を発見することができた様で、実りの多い活動となった。(渡辺健一郎)

「劇研アクターズラボ+サファリP」 チーム名「私鉄沿線・B」<指導：サファリP>

練習毎週水曜日

【稽古】

第1期 2021年7月～2022年7月 受講14名

第2期 2023年1月～2023年12月 受講6名

稽古会場：高槻市富田ふれあい文化センター、富田公民館

【公演】

第1期 2022年7月23日、24日 Theatre E9 Kyoto

演目「怪人二十面相」(原作 江戸川乱歩)

来場者数114名 3ステージ

脚本・演出 高杉征司 出演17名

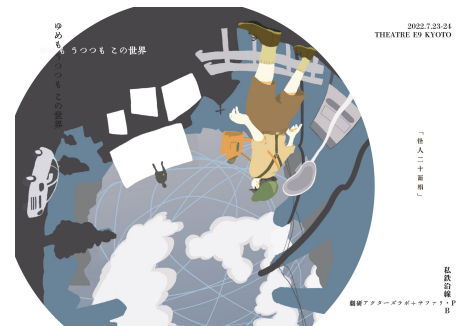
第2期公演予定：2023年12月16日、17日 高槻城公園芸術文化劇場

大スタジオ

演目「月と6ペンス」(原作 サマセット モーム)

<取り組み総括>

1期ではメインで高杉征司さんが毎週稽古をされ、サブでサファリ・Pメンバーが代わる代わる来る体制。2期では山口茜さん、達矢さん、佐々木ヤス子さん、芦谷さんの週替わり交代講師制で運営されている。1期では、コロナの影響もあり、せっかくの多世代でのメンバーにも関わらず、交流という点では課題が残る状況ではあったが、2期目においては、2年目での慣れというもあるのか、メンバー間のコミュニケーションの内容が、1期目とは明らかに変わってきているのを感じる。週替わりの講師交代制については、一つのコースの中で様々な視点で演劇を捉えることに役立っている。(丸木伸洋)



国際交流事業	支出額 0 円
--------	---------

1. 事業概要

舞台芸術を通じて交際交流を推進する事業。

2. 活動実績

昨年共同で事業を実施したスコットランドの劇団 Tricky Hat との交流は続いているものの、コロナの影響もあり今年度の事業は見送った。

3. 活動総括

コロナの影響などもあり、2022 年度は事業を実施できなかったが、コロナの影響が薄らいで来た事で次年度は何らかの形で事業を実現したい。（杉山準）

文化・芸術活動支援事業	支出額 984,488 円
-------------	---------------

1. 事業概要

舞台スタッフやプロデュースなど専門家の派遣や演劇プログラムの企画・実施等を請け負う。

2. 活動実績

- ・近畿大学文芸学部芸術学科舞台芸術専攻等への高所作業指導員の派遣。年間複数回実施。
- ・公益財団法人高槻市文化振興事業団が行う、高槻現代劇場の演劇プログラムの受託。（新劇場建設のため当年度での実施は見送られた。）

近畿大学および付属高校に高所作業等指導者を派遣

年間実績：延べ 63 名（前年度 53 名、一昨年 42 名）を派遣した。

コロナ禍からの回復により、派遣数も年を追って回復傾向にある。

3. 活動総括

新型コロナウイルス感染拡大の影響が以前より薄らいで来たこともあり、近畿大学からの委託も徐々に回復の兆しが見える。続いていた高槻現代劇場からの委託事業は劇場建て替えのため中止となったが、2023 年度は新たな劇場でアイスタートを切る予定である。（杉山準）

文化・芸術を教育や児童青少年育成に活用する事業	支出額 150,190 円
-------------------------	---------------

1. 事業概要

舞台芸術の表現の魅力を伝えるとともに、その表現や演技の力を社会に活かす活動を実施する。

2. 活動実績

高槻市文化振興事業団の依頼を受けて演劇のアウトリーチ事業として、演劇の手法を用いて学校での授業を実施。今年度もアシスタントとして、人材育成事業を受講していたメンバーを加えておこなった。

高槻市立寿栄小学校

10月19日（水）

対 象：3年生（2クラス48人）

講師1名 アシスタント1名 オブザーバー1名

高槻市立松原小学校

11月2日（水）

対 象：4年生2クラス（66人）

講師1名 アシスタント1名 オブザーバー1名

高槻市真上小学校

11月4日（金）

対 象：6年生（3クラス85人）*2コマに分けて実施

講師1名 アシスタント1名 オブザーバー1名



3. 活動総括（事業担当：杉山 準）

授業の一環で小・中学校で演劇にまつわるワークショップを行う事業も、11期目となり近年は文化祭のための「演劇技術」を教えるということから、「表現すること」や「コミュニケーションワーク」に比重を移しており、学校からもそうしたオーダーがほとんどになってきた。2022年度も小学校からのみのオーダーで3校においてそうしたワークショップを実施した。指導する側のノウハウの蓄積やスキルも上がっており、学校側にも好評をいただけている。2023年度は高槻市では事業再編のため実施は見送られたが、ノウハウや技術が活かせるような他の学校や地域も開拓していきたい。

文化・芸術による地域のまちづくり事業	35,055,964
--------------------	------------

1. 事業概要

文化・芸術を活用した手法を用いて地域のまちづくり、市民活動の活性化、地域振興に資する事業を実施する。

2. 活動実績

・京都市左京西部いきいき市民活動センターおよび左京東部いきいき市民活動センターの管理・運営およびサロン（旧 高齢者ふれあいサロン）の管理運営と市民活動、地域活性化に関わる事業の実施。建物の維持管理を行うとともに、会議室を、文化事業を始めとする市民活動に貸し出し、コロナ禍でありながら高い稼働率で運営を行った。今年度からいきいき市民活動センターの指定管理方法が変わり、指定管理料が減額され、その代わり利用料金が劇研に入る仕組みとなった。利用料を大きく値上げする必要があり、稼働率や利用者は減少した。利用料収入は見込みを上回ることができた。

・高齢者福祉やまちづくりに資する以下の「提案事業」（旧「市民活動活性化事業」）を京都市の委託事業として実施した。

<左京西部>

2022 年 4 月より、「利用料金制度」へと移行し、一律 100 円/1 時間であった使用料が最大 600 円/1 時間となり、指定管理料 20,925,802 円/1 年+市民活動活性化事業費 50 万円、合計 21,425,802 円から、必須業務 12,202,090 円/1 年+提案事業 475 万円/1 年で合計 16,952,090 円/1 年となり、減った分の 4,473,712 円は利用料収入で賄うこととなった。

2022 年度の会議室等利用件数は 4,802 件で前年度比 85%だった。（2021 年度 5,643 件）

総利用時間は 11,407 時間で利用率は約 60%だった。

会議室等利用料収入は 4,576,000 円でロッカー使用料が 78,020 円、今年度から独立採算となった自動販売機とコピー機からの収益が 67,945 円で合計 4,721,965 円だった。

今年度からの取り組み

利用料金制度への移行で、京都市指定の申請書を使わなくてよくなったこと、また、会議室等の利用料金が一律でなくなり、利用料の計算の煩雑さ軽減と、利用者が毎回手書きで申請書を書く手間を減らす利用者の利便性向上のため、利用者登録制度を採用し、パソコンで申請を管理するようになったことにより、ダブルブッキングや金銭授受の間違いは 0 になった。

主な提案事業について

「サロンを活用した市民活動活性化事業」の項目があることから、サロンを使用した積極的な市民活動活性化事業を行った。毎月開催される廃材アートワークショップや、子育て世代を対象にした物々交換会などは好評で今後も継続していこうと考えている。その一環でサロン活性化サークルを立ち上げ、メンバーからのアイデアで『ふれあいフリーガーデン』や『フリー本棚』の取り組みも始めた。



取り組み総括

地域の方から展示用の写真を提供していただく過程も含め、地域の歴史的価値や記憶を共有することができた。住民同士の交流、地域外の人たちへの情報発信ができた。地域の記憶をアーカイブ化しようとの機運が高まった。展示に使用した材木は展示期間終了後左京西部いきいき市民活動センターの棚として活用された。

（山口浩章）

<左京東部>

利用料の値上げに伴い、利用件数は前年比 25%減少し利用時間数においては前年比 27%減少と利用件数ベースよりも多くの減少が見られた。料金の値上げに伴い利用時間の節約が図られたためと考えられる。利用料金を値上げしたことで、収入ベースでは前年並みの予算を確保することができた。総利用件数は 6261 件、総利用時間数は 14,936 時間だった。

利用料金の収入実績

令和 4 年度実績：7,498,820 円

内訳 会議室等：7,310,000 円

付属設備：92,900 円 ※自主事業分を除く

ロッカー：95,920 円

*主な主催事業

【事業名】芸術・文化を活用した地域のまちづくり事業 取り組み 1 『多様な交流の促進事業』

左京東部いきいき市民活動センターを、利用団体、地域団体などとの交流の場として機能させるべく各種文化交流事業を開催した。プレイベントとして、プロの演出家を招聘して市民劇の上演を実施。秋の文化祭として高齢者市民による演劇の上演、シニアからダンスを始められた方によるクラシックバレエの公演、センター利用者による音楽の演奏、民族舞踊と国際交流イベントを開催。春の文化祭としてセンタ利用者による多彩な催しの発表、子供向けワークショップを開催した。

開催日時：令和 4 年 4 月 29 日 18 時 30 分、30 日 14 時および 18 時 30 分 等

開催場所：左京東部いきいき市民活動センター 集会室 等

参加人数： 408 名

協力団体等： NPO 法人ココペリ 121 等



3. 活動総括（事業担当：杉山準）

いきいき市民活動センターの指定管理事業は、利用料金制度の導入や予算削減による大きな変化が求められる年となった。そんな中、パソコンを使った受付を導入するなど申請の手間や業務の省略化を図り、職員の人数が減る中でも両センターでは活発に事業を展開した。昨年からスタートした養正地域のお祭り『かもがわデルタフェスティバル』はコロナの影響を若干受けたものの、左京西部いきいき市民活動センターが中心となり養正児童公園にて本格的に実施でき、800 名もの来場者で賑わった。また、養正市営住宅団地の再生計画の進行に伴い、かもがわデルタフェスティバル実行委員会が呼びかけ人となって、地域のまちづくりを考える『未来のまちづくりミーティング』を 9 回開催し、京都市へ意見書を提出することができた。これらは劇研の直接の事業ではないが、地域づくりにしっかり貢献することができた。（杉山準）